

学校法人尚絅学院

第5次中期計画

2025-2029

第5次中期計画の策定にあたって

学校法人尚綱学院は、この6年間、第4次中期計画（2019-2024年）をかけた、建学の精神を涵養しつつ時代を力強く生き抜く学生、生徒、園児の育成を目指し歩んできました。その真の評価にはなお時間を必要としますが、一定の成果を上げ今日に至ったことは確かです。この度、尚綱学院は、第4次中期計画の歩みを総括し、改めて取り組むべき課題を洗い出し、第5次中期計画（2025-2029年）として具体的に取り組む内容を設定しました。

策定にあたっては、尚綱学院が擁する大学・大学院、中学校・高等学校及び大学附属幼稚園が、一人ひとりを大切にされた教育・保育を続けるため、2025年度から2029年度までの5年間におけるビジョンを示し、その実現に向けた重点課題と到達目標を議論し、精査したものを取りまとめました。策定した第5次中期計画に沿って、尚綱学院はこれからも、建学の精神を基盤に、未来に向かってさらに前進する決意です。

〔第5次中期計画の主旨〕

1. 尚綱学院の生命線は建学の精神です。第5次中期計画においても、建学の精神を、変化する時代の中で深化・発展させることを目指します。
2. 第5次中期計画を短く表現すれば、くよくよく生き、よく奉仕する人を育てる—地域の人々のために、小さきもののために—ということです。そのため尚綱学院はこれまでの歩みをいっそう強化します。
3. 世界、そして取り分け日本の社会は大きな変化の中にあります。尚綱学院の使命を、この時代、この地域で持続的に果たしていくために、自らの変革に力強く取り組みます。
4. 中期計画も単年度の積み重ねであることはいうまでもありません。中期と短期を連動させ、PDCAサイクルによって前進し、最高の学びの機会と場所を尚綱学院は提供します。

2025年3月

学校法人 尚綱学院
理事長 佐藤 司郎

I N D E X

第5次中期計画の策定にあたって	1
一貫性の確保	3
ポリシー（基本方針）の視点	5
中期計画	
学校法人尚絅学院	6
尚絅学院大学・大学院	7
尚絅学院中学校・高等学校	8
尚絅学院大学附属幼稚園	9

一貫性の確保

第5次中期計画は、建学の精神と本学院のミッション（使命）を踏まえたビジョン（将来像）とポリシー（基本方針）を示した上で、ビジョンの実現に向けた「中期計画」とします。

そして、中期計画を踏まえ具体化した「単年度事業計画」に連動させることにより、建学の精神から各所属の現場業務までつなげ、一貫性を確保します。

第5次中期計画及び単年度事業計画は、行動計画をPDCAサイクルに基づき各実施現場の責任者のもとで半期に1度、課題達成に向けた取り組みの進捗状況の確認及び実施内容の検証を行います。

すべての教職員と理事、監事、評議員とが共有し、一体となって、その計画の目標達成に向けて不断の努力を着実に重ねることで、建学の精神の実現に繋げていきます。

建学の精神

キリスト教精神に基づく教育によって、自己を深め、他者と共に生きる人間を育てる。

ミッション（使命）

学校法人尚絅学院は、建学の精神に基づいて、自らの人格の形成につとめ、他者と共に生き、人類の幸福と社会の発展に貢献する創造的な人材を育成する。

ビジョン（将来像）

学生生徒園児一人ひとりの賜物を育むため、教職員が共に成長する意識を持ち、常に教育改革と学院の安定的な運営に全力で取り組み、そのことによって社会に貢献し、地域から信頼される学院になる。

ポリシー（基本方針）

①人間形成

②教育研究

③社会貢献

④経営基盤

中期計画 (2025～2029)

- ・建学の精神、ミッションを実現するためのビジョンとポリシーに基づく「目標」
- ・4つのポリシーごとに「重点課題」と「到達目標」

単年度事業計画

中期計画で設定した到達目標ごとに「達成方策」と「行動計画」

現場業務

単年度事業計画に基づき、行動計画に取り組み、毎年度計画の進捗状況を確認し、必要に応じて計画内容を点検し見直す

ACTION

・点検と事業計画の内容見直し

CHECK

・進捗管理と単年度事業報告

行動計画

PLAN

・単年度事業計画

DO

・計画の実行と推進

ポリシー（基本方針）の視点

①人間育成 キリスト教精神に基づいた人格の形成と他者と共に生きるの実践

他者の置かれた状況、他者が必要とするものに共感することが、キリスト教精神であり、隣人愛の出発点である。時代がどんなに変わろうとも決して変わらないのは、キリスト教精神に基づく他者への愛、そして共に生きることを喜ぶ人間の育成である。建学の精神を堅持し、学院構成員全員がキリスト教精神に基づく学院運営・教育に努める。

②教育研究 学ぶ楽しさを実感し、生きる力を育む教育と研究の推進

教育と研究の有機的な循環により、学生生徒園児一人ひとりの成長を実現する特色のある教育・研究の実践と学ぶ楽しさを実感できる新たな教育プログラムの創出が必要である。多様化する社会的課題の解決には、常に学び続け、主体的に考え行動し、自ら未来を切り拓く力（問題解決力）を備えた人材を育成する教育機関を目指す。

③社会貢献 地域・社会と共に歩む学院としての自覚と貢献

特色のある教育研究の成果を社会に還元し、地域の活性化に寄与するとともに、地域・社会に貢献できる人材育成を目指し社会連携活動の強化に取り組む必要がある。これまでの様々な絆を未来へ繋ぎ、学院全体の一体感、地域との一体感を高め、学院構成員全員が地域と共に歩むという使命感と自覚を持ち、社会に寄与する。

④経営基盤 学院を持続的に発展させるための変革と経営・財務基盤の確立

学院の持続的な発展と持続的成長を実現する経営基盤強化のため、社会環境に応じた変革と発展を絶えず続け、柔軟な組織の構築と安定した財務基盤の確立を目指す。進むべき方向性を学院構成員全員で共有し、ガバナンス強化や経費削減等を継続しながら経営体制の高度化と安定的な法人運営を進めるとともに、社会へ適切な情報を発信する。

学校法人尚綱学院 第5次中期計画（2025～2029年度）

【部署：学院】

建学の精神	キリスト教精神に基づく教育によって、自己を深め、他者と共に生きる人間を育てる。	
ミッション	学校法人尚綱学院は、建学の精神に基づいて、自らの人格の形成につとめ、他者と共に生き、人類の幸福と社会の発展に貢献する創造的な人材を育成する。	
ビジョン	学生、生徒、園児一人ひとりの賜物を育むため、教職員が共に成長する意識を持ち、常に教育改革と学院の安定的な運営に全力で取り組み、そのことによって社会に貢献し、地域から信頼される学院になる。	
ポリシー	1. 人間育成 キリスト教精神に基づいた人格の形成と他者と共に生きるの実践 2. 教育研究 学ぶ楽しさを実感し、生きる力を育む教育と研究の推進 3. 社会貢献 地域、社会と共に歩む学院としての自覚と貢献 4. 経営基盤 学院を持続的に発展させるための変革と経営・財務基盤の確立	
中期計画		
目 標	建学の精神を継承し、学院の事業継続のため、学生募集の安定化に努め、学生生徒園児への教育サービスの向上を図る。他者と共に生きる人間を育て、社会に貢献し社会から信頼される学院を目指し、将来構想を策定する。	
ポリシー（再掲）	重点課題	到達目標
1. 人間育成 キリスト教精神に基づいた人格の形成と他者と共に生きるの実践	① 建学の精神に基づくキリスト教教育及び活動の実践	a. 各所属において礼拝が守られ、学生、生徒、園児への聖書の授業や学びが確実に行われている。
		b. 学生、生徒、園児及び教職員が学院を愛し、誇りをもって学び、働くことのできる帰属意識が醸成され、愛校心が育まれている。
		c. エラ・オー・パトリックホームが学院の象徴として学内外に広く周知され、活用されている。
2. 教育研究 学ぶ楽しさを実感し、生きる力を育む教育と研究の推進	① 設置学校の改編	a. 社会的情勢を踏まえた大学院の適正規模の見直し（再編）が行われている。
		b. 社会的情勢を踏まえた大学の適正規模の見直し（改組・定員変更・資格課程再編）が行われている。
		c. 社会的情勢を踏まえた中学校の教育体制の見直しが行われている。
		d. 社会的情勢を踏まえた幼稚園の教育体制の見直しが行われている。
	② 教育インフラの整備	a. 課外活動施設が整備・開放され、学生、生徒の課外活動が活性化されている。
		b. 校舎等の長寿命化計画が策定され、計画的な改修工事が行われている。
③ 高大連携の強化	a. 大学教員、学生と連携した授業等が中高で行われ、入学後教育に活かされている。	
	b. 中高教員、生徒への大学情報の提供が行われ、大学受験への誘導と入学者確保につながっている。	
3. 社会貢献 地域、社会と共に歩む学院としての自覚と貢献	① 産学官連携による社会貢献	a. 地元自治体を中心に企業等との連携事業が活発に行われている。
	② 同窓会・後援会との協力関係構築	a. 同窓会・後援会事務室の運営に法人が適切に関わっている。 b. 同窓会・後援会行事の運営に法人が協力し、活性化に寄与している。
4. 経営基盤 学院を持続的に発展させるための変革と経営・財務基盤の確立	① 安定した財政基盤の構築	a. 経営改善計画を策定し、着実に実行され、収支バランスが安定している。
		b. 教育研究及び管理運営におけるスクラップ&ビルドを確実に実行し、適正な予算編成・執行が行われている。
		c. 寄付活動等による外部資金獲得を積極的に推進することにより、収入が増加している。
		d. 適正な人件費負担に向けた施策を推進することにより、支出が削減されている。
	② 組織体制の活性化	a. 事務系職員の人事評価制度を検証し、昇格や処遇等の見直しが行われている。
		b. 労働環境の他、業務相談やコミュニケーションが取りやすい職場環境が整備されている。
		c. SD研修と人事異動等により、事務系職員の業務遂行能力を高め、学校職員として組織に資する人材を育成する。
		d. ハラスメント防止、メンタルヘルスケア、健康診断及びストレスチェック等、教職員が健康経営に積極的に取り組んでいる。
		e. 大規模災害対応、事業継続計画、情報セキュリティ等のリスクマネジメント体制が整っている。
	③ ガバナンス機能の強化とコンプライアンス管理の徹底	a. 私学法改正に伴い新たに整備した内部統制システムの運用によって、理事の職務執行及び法人の業務が適正に確保されている。
		b. 内部統制基本方針に基づく、経営、リスク、コンプライアンスの管理体制及び監査環境の整備で法人によるガバナンスが機能している。
		c. 役員に必要な学校法人のガバナンスとコンプライアンスの研修が開催されている。
	④ DX等の活用による運営管理機能の強化	a. DX推進による業務効率化が行われ、ワークスタイル改革を実現している。
b. IR等を活用して、法人及び各所属の運営の高度化が進み、経営判断に活かされている。		
⑤ 広報活動の戦略的実施	a. 法人の広報体制強化とメディア及びブランディングの戦略策定により、適宜情報が社会へ発信されている。	

学校法人尚絅学院 第5次中期計画（2025～2029年度）

【部署：大学・大学院】

建学の精神	キリスト教精神に基づく教育によって、自己を深め、他者と共に生きる人間を育てる。	
ミッション	学校法人尚絅学院は、建学の精神に基づいて、自らの人格の形成につとめ、他者と共に生き、人類の幸福と社会の発展に貢献する創造的な人材を育成する。	
ビジョン	学生、生徒、園児一人ひとりの賜物を育むため、教職員が共に成長する意識を持ち、常に教育改革と学院の安定的な運営に全力で取り組み、そのことによって社会に貢献し、地域から信頼される学院になる。	
ポリシー	1. 人間育成 キリスト教精神に基づいた人格の形成と他者と共に生きるの実践 2. 教育研究 学ぶ楽しさを実感し、生きる力を育む教育と研究の推進 3. 社会貢献 地域、社会と共に歩む学院としての自覚と貢献 4. 経営基盤 学院を持続的に発展させるための変革と経営・財務基盤の確立	
中期計画		
目 標	建学の精神を堅持し、学修者中心の教育のさらなる推進と共に、研究、地域共創等の活動を活発化し、社会から必要とされる大学であり続ける。	
ポリシー（再掲）	重点課題	到達目標
1. 人間育成 キリスト教精神に基づいた人格の形成と他者と共に生きるの実践 （心を響かせる）	① 建学の精神の理解の共有化と実践の推進	a. 教職員が建学の精神を十分理解し、学生の理解を深める働きかけをしている。 b. 教職員・学生が、礼拝への積極的な参加を通して、キリスト教精神を育んでいる。
	② 自己を深め、「他者と共に生きる」の実践	a. 国籍・文化・障がいなどの多様性を理解したうえで、認めることができている。 b. 学内外のボランティア活動、学生同士のピアサポート活動が活発に行われている。 c. 同窓会・卒業生等本学関係者との連携が強くなっている。
	③ 学生総合支援体制の確立	a. 学修支援、学生生活支援、就職支援の連携強化により、多様な学生に対する支援体制が充実している。 b. 学生の希望に沿った卒業後の進路が確保されている。
2. 教育研究 学ぶ楽しさを実感し、生きる力を育む教育と研究の推進 （自信をみかく）	① 学修者本位で、時代のニーズに応える教育の推進	a. 質の高い教育と適切な学修支援により、学生の修学意欲が高まっている。 b. 地域等との連携教育や情報教育が成果を上げている。 c. 学群・学類構成と教育プログラムが学生・社会のニーズに合致している。
	② 学生生活の充実と大学運営への学生の主体的関与の促進	a. 課外活動、その他の学内での学生の活動が活発化している。 b. 学生生活の維持・充実のための適切な支援がなされている。 c. 大学運営に学生が主体的に関わっている。
	③ 研究活動の活発化	a. 教員の研究活動が活発化している。 b. 大学院教育が活発化するとともに、将来の見通しが立っている。 c. 科学研究費をはじめ外部研究費の獲得が進んでいる。
	④ 教育設備・施設の充実	a. 現代社会で必要とされる情報教育を実施できる環境が整備されている。 b. 老朽化に伴う施設・設備及び新規に必要な施設・設備が計画的に更新・導入されている。
3. 社会貢献 地域、社会と共に歩む学院としての自覚と貢献 （キャンパスをひらく）	① 地域共創に向けた取り組みの促進	a. 自治体・企業・他大学等との連携事業が活発に行われている。 b. 地域連携拠点の活用が進み、多岐にわたる活動が推進されている。 c. 本学の取組みを周知するための広報活動が的確に行われている。
	② 国際交流の推進	a. 協定校との連携強化が進み、留学生数が増加している。 b. 学内での国際交流事業が活発に行われている。
	③ 高大接続教育等の推進	a. 系列校（尚絅学院高等学校）を中心とした高大接続教育が充実している。 b. 地域の中学校・小学校との連携教育活動が積極的に行われている。
4. 経営基盤 学院を持続的に発展させるための変革と経営・財務基盤の確立 （未来へつなぐ）	① 入学者・在学者の確保と適正規模の見直し	a. 入学生確保に向けた募集活動が活発に行われ、入学定員が充足している。 b. 休学・退学者減少に向けた対策が適切に行われ、収容定員が充足している。 c. 社会的情勢を踏まえた本学の適正規模の見直しが行われている。
	② 適正な教職員配置・教育研究費配分と外部資源の活用	a. 教育プログラム運営に必要な十分な教職員が配置されている。
		b. 部署ごとに必要な教育研究費が配分され、適切に使用されている。
		c. 外部資金獲得をはじめとした外部資源の活用が進んでいる。
	③ 内部質保証の推進	a. 自己点検評価が適切に行われ、PDCAサイクルが機能して、内部質保証が確実にできている。 b. 外部評価委員会、学生意見交換会、認証評価の結果などが大学運営に反映されている。

学校法人尚綱学院 第5次中期計画（2025～2029年度）

【部署：中学校・高等学校】

建学の精神	キリスト教精神に基づく教育によって、自己を深め、他者と共に生きる人間を育てる。	
ミッション	学校法人尚綱学院は、建学の精神に基づいて、自らの人格の形成につとめ、他者と共に生き、人類の幸福と社会の発展に貢献する創造的な人材を育成する。	
ビジョン	学生、生徒、園児一人ひとりの賜物を育むため、教職員が共に成長する意識を持ち、常に教育改革と学院の安定的な運営に全力で取り組み、そのことによって社会に貢献し、地域から信頼される学院になる。	
ポリシー	1. 人間育成 キリスト教精神に基づいた人格の形成と他者と共に生きるの実践 2. 教育研究 学ぶ楽しさを実感し、生きる力を育む教育と研究の推進 3. 社会貢献 地域、社会と共に歩む学院としての自覚と貢献 4. 経営基盤 学院を持続的に発展させるための変革と経営・財務基盤の確立	
中期計画		
目 標	キリスト教を土台として、人間のあり方を探り、他者と共に生きる生徒を育てる。 社会や時代の要請にこたえ、未来を切り拓くたくましい生徒を育てる。	
ポリシー（再掲）	重点課題	到達目標
1. 人間育成 キリスト教精神に基づいた人格の形成と他者と共に生きるの実践	① 毎朝の礼拝・終礼の実施とキリスト教行事、キリスト教課外活動の充実	a. 生徒が住んでいる地域の教会から牧師を礼拝説教に招き、各部署間の協力のもと賛美を充実させ、各取り組みを通して聖書理解が深まっている。 b. キリスト教暦に基づき年間の諸行事を企画し、生徒を主体的にキリスト教活動に参加させ、校内外に積極的に発信している。
	② 「挨拶」がしっかりとできる生徒の育成	a. 生徒一人一人が、日常の挨拶だけでなく、生活のなかで感謝やお詫びの言葉を、考えて自発的に発することができるようになっている。
	③ 進路を切り開く力の習得	a. 生涯に渡り、他者と協働し、利他的な働きができる生徒が育っている。
2. 教育研究 学ぶ楽しさを実感し、生きる力を育む教育と研究の推進	① 確かな基礎力を培い、柔軟な思考力や豊かな発想力を育むことができる環境の構築	a. 効果的なカリキュラムと評価方法が策定されている。
		b. 教員の授業力を向上させ、ICT等の環境整備が計画的に行われている。
		c. 学ぶ意義を理解し、積極的に授業に臨む生徒の姿勢を涵養することができる。
② 総合探究における学外組織・機関との協力体制の充実	a. 地元の地域課題における自治体やNPO等との協力関係が構築されている。	
	b. 総合探究のフィールドとなる自治体や諸団体、企業等との連携の充実が図られている。	
	c. 学校外での総合探究のアウトプットの機会が増えている。	
3. 社会貢献 地域、社会と共に歩む学院としての自覚と貢献	① 地域行事への参加やボランティア活動の推進と諸団体との連携強化による教育支援活動の実現	a. 学年・コースや各部活動で、地域と交流し貢献する活動が積極的に行われている。
		b. 学校とPTAとの業務分担を整理し、効率化と保護者・教職員の負担軽減が進んでいる。
4. 経営基盤 学院を持続的に発展させるための変革と経営・財務基盤の確立	① 志願者数の増加と安定した入学者の確保	a. SNSを活用した情報発信が積極的に行われ、入学定員が充足している。
		b. デジタルマーケティングの手法を取り入れ、得られた顧客のデジタルデータを分析・活用して、志願者獲得のチャンスが広がっている。
	② 安心・安全な施設・設備と教育の質を維持する環境の整備。	a. 予算編成・配分の最適化が図られ、執行管理が適正に行われている。
		b. 施設・設備・備品の整備と更新が計画的に行われている。
		c. 業務の効率化とDX化が推進されている。

学校法人尚絅学院 第5次中期計画（2025～2029年度）

【部署：幼稚園】

建学の精神	キリスト教精神に基づく教育によって、自己を深め、他者と共に生きる人間を育てる。	
ミッション	学校法人尚絅学院は、建学の精神に基づいて、自らの人格の形成につとめ、他者と共に生き、人類の幸福と社会の発展に貢献する創造的な人材を育成する。	
ビジョン	学生、生徒、園児一人ひとりの賜物を育むため、教職員が共に成長する意識を持ち、常に教育改革と学院の安定的な運営に全力で取り組み、そのことによって社会に貢献し、地域から信頼される学院になる。	
ポリシー	1. 人間育成 キリスト教精神に基づいた人格の形成と他者と共に生きるの実践 2. 教育研究 学ぶ楽しさを実感し、生きる力を育む教育と研究の推進 3. 社会貢献 地域、社会と共に歩む学院としての自覚と貢献 4. 経営基盤 学院を持続的に発展させるための変革と経営・財務基盤の確立	
中期計画		
目 標	キリスト教精神に基づき一人ひとりの個性を豊に育み、自由遊びを通して主体性、コミュニケーション能力、共感性や倫理観といった非認知能力を育てる。大学附属幼稚園として大学との連携を図り幼児教育を推進する。	
ポリシー（再掲）	重点課題	到達目標
1. 人間育成 キリスト教精神に基づいた人格の形成と他者と共に生きるの実践	① キリスト教精神に基づく幼児教育の充実	a. 毎日の食前の祈り、感謝の祈り、行事全てがお祈りと成長に応じて選曲された賛美歌で始まっている。 b. 花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス、イースター、卒園礼拝は親子礼拝とし、保護者と共にキリスト教を学んでいる。 c. 年長児による教会訪問が行われている。 d. 絵本、紙芝居、子ども聖書物語等の教材を用いたキリスト教教育が行われている。
	② 建学の精神の理解とキリスト教教育の実践	a. 毎日の朝会、職員会議でのお祈りが守られている。 b. 園内外でキリスト教を学び、理解を深め、キリスト教教育の実践が行われている。
	③ 保護者のキリスト教の学びと理解	a. 懇談会、役員会、総会での礼拝が守られている。
2. 教育研究 学ぶ楽しさを実感し、生きる力を育む教育と研究の推進	① 少子化へ対応する保育内容の見直し	a. 少子化に対応したカリキュラム編成、保育行事の見直しが行われている。
	② 特別支援が必要な園児への支援体制の確立	a. 就学に向けて小学校との連携が密になる支援体制が整っている。 b. 専門機関や医療機関と連携する支援体制が整っている。
	③ 預かり保育における保育内容の充実と保育環境の整備	a. 預かり保育を充実するために保育内容を検証し、入園につながる改善が行われている。 b. 適正な保育士の配置が行われ、保育環境の安全が守られている。
	④ 大学との連携強化	a. 附属幼稚園としての役割を再検証し、大学子ども学類との連携が密に図られている。 b. 大学の各学群の専門性を活かした行事が行われている。 c. 実習園として大学生の実習を積極的に受け入れている。
3. 社会貢献 地域、社会と共に歩む学院としての自覚と貢献	① 地域との交流	a. 地域の高齢者のコミュニティの場として園舎が開放されている。 b. 地域と園児との交流が定期的に行われている。
	② 教育機関等との連携の充実	a. 近隣の小・中・高等学校の実習の場として充実した連携交流が行われている。 b. コロナ禍で途絶えていた訪問施設との交流が再開されている。 c. 2027年度から西多賀病院の連携園として、交流等が活発に行われている。
4. 経営基盤 学院を持続的に発展させるための変革と経営・財務基盤の確立	① 入園者の確保と適正規模・運営体制の見直し	a. 大学の長町サテライトプラザを利用した園児募集が戦略的に行われ、入園者の確保につながっている。 b. SNSを積極的に活用した園児募集が行われ、入園者を確保している。 c. 保育者の養成と資質向上によって、多様化する子どもを積極的に受け入れる体制を整えると共に、保護者への支援体制も充実している。 d. 少子化を踏まえた本園の適正規模の見直しが行われている。
	② 近隣の保育施設との差別化	a. 豊かな自然環境の中、質の良い保育内容を構築するための園内外での研修機会を充実させ、保育者が学びを得ている。その結果を保育に反映させ、十分な情報発信がなされている。
	③ 未就園児活動の充実と周知	a. 未就園児活動を充実するために活動内容を検証し、入園につながる改善が行われている。 b. 未就園児活動を広く周知することが、募集活動の一役を担っている。
	④ 学童保育の導入	a. 卒園児を中心とした学童保育の導入に向けた検証が行われ、園としてのまとめが出来上がっている。

学校法人尚絅学院

尚絅学院大学・大学院

尚絅学院中学校・高等学校

尚絅学院大学附属幼稚園

学校法人尚絅学院 経営戦略室／経営管理部企画課